

2016年12月12日 千葉大学アカデミック・リンク・センター  
千葉大学アカデミック・リンク・セミナー/ALPS セミナー  
「グローバル化するキャンパスにおける学修支援の在り方」  
参加者アンケート集計結果

当日参加者数： 50名（アカデミック・リンク・センター・附属図書館関係者を除く）アンケート提出数：39件

千葉大学アカデミック・リンク・センターは、教育関係共同利用拠点として、「教育・学修支援専門職」の養成のために必要な研修プログラムの構築・運営の準備に取り組んでいきます。今後の活動のために、本日のセミナーに参加されたご意見・ご感想をお寄せください。なお、記載いただいたご意見・ご感想は、個人名・組織名が特定できないかたちで公開する場合があります。

1. 本日のセミナーで、よくわかったこと、新しい発見などがあればお書きください。

- ・留学生・国内学生が多様な環境で快適かつ有意義な学生生活を送るための支援について大いに学ばせていただきました。
- ・AIUについては留学に対する学内体制、APUではピアサポートを上手に授業に取り入れて実践する手法が印象に残った。
- ・ただ甘やかしたり丁寧にするのではなく、“自立させる”という共有の目標のもとに判断していくという大学の方針の明確さが大切であるということ。
- ・両大学における理念はよくわかったが、千葉大がどう考えてやろうとしているのかが見えてこない。
- ・大学の「グローバル化」が「目的」になっている為、「交ぜる」方法論についてのKNOW-HOWの開示セミナーとなっていたが、(大学のグローバル化のために大変なコストをかけていること)、学生のグローバル化にどう機能しているか、どう自己評価しているかももう少し聞きたかった。
- ・AIU、APUの具体的な取り組みと課題。
- ・AIUとAPUの事例を比較しながら聴ける機会が貴重でした。
- ・先駆的な活動をされている2大学の具体的な事例を伺えてよかったです。
- ・ピアサポートの実践事例が勉強になった。
- ・受け入れ、派遣両側におけるサポート力、かたち。
- ・グローバル化する上での学生・学修支援のあり方。
- ・留学生の受け入れに関するサポート策は手厚く行う必要があることを再認識。国内における弱者サポート的発想が必要。
- ・先達としての大学の取り組みがよくわかりました。
- ・グローバル化を進めることで留学生だけでなく日本人学生にとっても大きな学びの場になるとともに、教職員のスキルアップの機会になると感じた。
- ・「留学」に対する意味を考えさせられた。
- ・国際教養大学においては、教職員による手厚いサポート体制が構築されているということ、また、学内の教員、職員の壁がほとんどないという学内体制などが非常に特徴的であると感じた。APUにおいては学生を教育の場面でうまく活用する仕組みができていているということがわかった。
- ・国際教養大学、APUともに非常に充実した体制で学生への支援を行っており加えて学生をいかに成長させるのかという点については、どちらの大学も共通しており本学に足りない点ではないかと思いました。
- ・TAの使い方、研修・養成方法について理解できた。
- ・AIUもAPUも難関大学でカリキュラムに必死についてくる学生さんの様子が目にうかびます。大学を支える教職員も常にスキルアップを求められていると感じました。自分の職場がいかにゆるいか、この先2018年問題（18歳人口が減る）を乗り越えるため真剣に取り組まなければならないことを考えさせられました。

次ページに続く

- ・学生の主体性も大切だが、受け入れる側の姿勢も大切だと感じました。
- ・教員と職員の連携の重要性、学生の主体性を重視することの大切さを再確認できました。
- ・留学前（中）の準備が非常に丁寧に行われていることがわかった。参考になりました。
- ・千葉大学の国際教養学部の運営において共通の課題もあり、とはいえ、ここまでできない、という部分も多々あり。部分的に導入してみたいと考えました。
- ・留学生の学修支援の実践的な取り組み、問題点など。
- ・学内が一体となって取り組むことが不可欠であると感じた。
- ・グローバル化との中で、図書館がいかに関与していくかも考えていかねばならないと感じた。
- ・どちらの大学の実践例も非常に具体的で参考になりました。
- ・留学生に対する学修支援の在り方、日本人と留学生相互へのケア。
- ・「グローバル化するキャンパス」を劇的に実現するには、既存の制度にとらわれないプログラム、カリキュラムが必要であると思いました。
- ・留学生の受け入れに対して様々な工夫がとても勉強になりました。
- ・学生の派遣・受け入れが一体不可分であることの重要性と必要性。
- ・提携校との信頼関係の大切さ。
- ・アドバイジングの重要性（教員・職員連携）。
- ・TA、LTA・教員・職員の協働システムのよさ。
- ・学生一人一人に対して手厚いサポートをしているということが分かりました。
- ・日本人学生×留学生をうまくMIXさせる工夫が様々なされていることが分かりました。
- ・留学生のサポートについてとても細かいケアをされていると感じました。
- ・学生生活課題に精神面が多いことについてはおどろきました。
- ・ピアサポーターの充実。
- ・学生寮の改善（教育的視点での）
- ・両校ともきめ細やかなサポートをしていらっしゃると思いました。学生を自立させる＋安全等を守る、大変な作業かと思いますが、一つ一つの丁寧な取り組みが一人一人の留学を成功へと導くことになると思いました。また受け入れの学生の状況もよく把握し、連携をとっておくことの重要性などが、継続のカギだと思いました。
- ・留学を義務付ける、または海外留学生の受け入れを増やす事は昨今どの大学においても力を入れている箇所でございますが、具体的にどのようにシステム化し、またどのような問題が起こる（起こり得る）のでこのような対策をしているという、自身では気付かない細かな部分まで教えて頂くことができました。

## 2. 本日のセミナーで、よくわからなかったこと、疑問に残ったことがあればお書きください。

- ・日本人学生の英語力強化は？上手に交わるには必須なので。
- ・混ざれない学生への対応をもっとくわしくうかがいたかった。
- ・留学を出す及びむかえる千葉大はどう考えているのか。
- ・大学院の支援についても知りたかったです。
- ・教員の準備や修得すべき知識、技術について今から学びたいです。
- ・留学生の受け入れ過程。
- ・国際教養大学ではファンクションによって大学の部署が構成されているとのことであり、専門的な能力をもった職員が育成されやすい環境なのではないかと察しますが、職員の異動などは国立大学等と同様、2年程度で配置換えとなるものなのかどうか。

次ページへ続く

- ・TAの選考については基準があるので、特に問題ないのかとは思いましたが、例えば成績と人格であればどちらをより優先するなどはありますか？
- ・AIUでは9割の学生がキャンパスに住んでいるということですが、もし100%の学生が寮生活を希望した場合部屋はあるのでしょうか？
- ・大学院レベルの学修支援、考え方について。
- ・LTA-TA研修とピアリーダー育成の関係や全体構想。
- ・休日直後のサポーターはいないのか？
- ・登録制などの連続性の有無。
- ・D.O率がどれぐらいなのか知りたいと思いました。
- ・TAは大学院生の方中心なのか。
- ・AIUの留学アドバイザー、アカデミックアドバイザーの方は専門の方が担当されているのか、一般の職員の方なのか。
- ・詳しく説明して頂きましたので、疑問等は特に残ることはございませんでしたが、最後の質問で宿題となった項目は、自分なりに考えてみたいと思いました。

**3. 大学における教育・学修支援の在り方についてのお考え、教育・学修支援のために必要と思う資質・能力、また、教育・学修支援のご所属先での取組事例やご存知の特徴ある事例などがあればお書きください。**

- ・千葉大は、留学生数が国立大学としては多い方だと思うが、それはどのように活かされているのか。特に国際教養学部（教育学部も一部含め）
- ・(事務)職員がどのくらい教育・学修支援に入る(頻度や深度)ことができるのか。組織の中でどのように考えられているのかに興味があります。
- ・国際教養大学のアカデミック・アドバイザーの事例をお伺いし、日本と海外協定校のいずれの授業内容、カリキュラムを熟知していることが、グローバルキャンパスにおける学修支援というところでは必要となる能力であると感じた。
- ・国内ではありませんが、タイ マヒドン大学に短期留学に行く学生に随行しておりますと、APUのような取り組みが実施されており、非常に興味深いと感じていました。コーディネータと学生の垣根がなく「チーム」としての責任を担っており、プログラムの向上に役立っているように感じました。
- ・冷静な判断力と学生の事を第一に考える能力
- ・支援として手厚くフォローというより、いかに自立、自主性を生み出せるかということが大事だと改めて感じさせて頂きました。
- ・巻き込み力。
- ・留学生の受け入れに関しましては、勉強のみならず生活やメンタル面等、ありとあらゆる部分でどのようにサポートすべきかが日々難しく感じてはおります。どこまで踏み込んでよいのかは、常に自問する部分かもしれません。工学部では留学生担当教員の先生等が就職活動の相談まで細やかなサポートをして下さり、事務方と連携をとって対処して下さります。そのような繋がりにとても助けられております。

**4. 本日のセミナーの内容について等、その他、自由にご意見をお書きください。**

- ・大変勉強になりました。またインバウンド留学生に対応するためのセミナーなど開催していただければうれしいです。

次ページに続く

- ・専門外のテーマでしたが、大変勉強になりました。ありがとうございました。授業の中で少なからず留学生がいるので、留学生をもう少し意識した授業展開（プログラム）も考えたいと思いましたし、もう少しグループワークでの交流も考えてみたいと思いました。新たな視点（発想）につながりました！！
- ・セミナー開催のウェブをもう少し見つけやすいように。例えばイベント一覧など。
- ・（マイナスの意味ではなく）大変広いトピック及び豊かな話題提供だったため、時間が足りなく感じました。
- ・大学より前の教育段階で行われるべきことの比重がかなり重いと感じた。大学がこれを担うことをどこまで続けられるか、それを社会がどう支えられるか、議論を深める必要があるのではないか。
- ・貴重なお話をありがとうございました。
- ・非常に有意義でした！
- ・外国人学生、日本人学生に対する手厚い生活・教育支援の事例を伺い、とても参考になりました。
- ・基本的な事例を聞くことができ参考になりました。
- ・秋田、大分と本学よりも遠方であるにも関わらず、素晴らしいプログラムを実行されているなど感じました。貴重なお話が聴けてよかったです。
- ・本日も受講機会を提供いただきありがとうございました。講師の先生方、セミナー準備に関わられた皆様、お疲れ様でした。
- ・たくさんの参加者の方が来られていて良かったです。このテーマに興味のある方がいらっしゃることを知ることができて嬉しく感じました。もっと盛り上げていけると良いかと思います。宜しくお祈いします！
- ・日本のグローバル化を牽引する2大学の教職員の方から貴重なお話を聞くことができとても参考になりました。貴重な機会を設けて頂きありがとうございました。
- ・とても有意義なセミナーでした。ありがとうございました。
- ・国際教養大学は、かつて桜美林大学の諸星裕教授が副学長を務めておられ、諸星先生からはお話を聞いていましたが、現状について現職の先生のお話を聞くことができ大変参考になりました。
- ・他大学からの参加者が多いので、もう少し交流の場があってもよいかもしれない。
- ・大変勉強になりました。ありがとうございました。
- ・本学でも取り入れられる内容が多く含まれていたのので、参考にさせていただけたらと思いました。
- ・大変興味深く聞かせていただきました。ありがとうございました。
- ・まさに直面している課題に関する事例が聞けてよかったです。
- ・本日はありがとうございました。私共の専門学校で大学さんの取り組みをどう取り入れていくのか（取り入れていきたいと思ったので）考えていきたいと思います。
- ・先進的な取り組みをうかがうことができとても有意義でした。
- ・両校の具体的な事例のご紹介、取り組み、めざしているものなど本当に勉強になり自分の motivation につながりました。このようなセミナーを受講することができることは大変意味のあることだと思います。
- ・本日は貴重なお話しを伺うことができ誠にありがとうございました。両大学さまとも先進的な試みでとても有名でいらっしゃいますので、このような場を設けて頂き感謝の限りです。

5. 次の（１）、（２）について、該当するものに○をつけてください。

- (1) a. 千葉大学外の方 20名      b. 千葉大学内の方 15名（特に回答なし 4名）

- (2) a. 学生 0名 b. 教員 7名 c. 大学職員(図書館職員を除く) 23名 d. 図書館職員 6名  
e. 出版関係 0名 f. その他 3名

6. セミナーを何で知りましたか? (※複数回答あり)

- a. Web(アカデミック・リンク・センター) 5名 b. Web(図書館) 0名 c. Web(千葉大学) 3名  
d. 図書館内電子掲示 0名 e. ポスター 1名 f. センターからのメール 24名  
g. Facebook・Twitter 1名 h. その他 7名(上司の紹介、大学図書館協会からの案内、等)

7. 千葉大学 アカデミック・リンク・センターでは、セミナーの開催や関連する情報を提供しています。これらの情報を希望される方は、お名前・ご所属・メールアドレスをご記入ください。(既に登録されている方は引き続きお届けしますので、空欄で結構です)

お名前:( ) 所属:( )  
電子メールアドレス:  申込時に利用したもの  それ以外 ( )

ご協力ありがとうございました。

※10名が新規に継続的な情報提供を希望